

社会資本総合整備計画														社会資本整備総合交付金														令和05年12月12日					
計画の名称	高の原駅周辺地区における居心地の良く歩きたくなる空間整備																																
計画の期間	令和06年度～令和09年度（4年間）																		重点配分対象の該当				○										
交付対象	奈良市																																
計画の目標	大目標：2府県3市町にまたがる平城・相楽ニュータウンにおける持続・発展的なまちづくりの実現																																
	目標1：地域住民、活動団体、事業者の力や学研都市の立地を生かした、ニュータウン全体を運営するエリアマネジメントの実施																																
	目標2：ゆとりある公園や緑道とエリアの中心である駅前広場がネットワーク化している魅力を活用し、地元重視、暮らし重視、回遊を生むウォーカブルなまちの実現																																
	目標3：今ある良さ「高の原（平城・相楽ニュータウン）らしさ」をより明確化し、伸ばすことことでブランド化する戦略的なエリアブランディング																																
全体事業費（百万円）				合計（A＋B＋C＋D）				1,908		A		1,908		B		0		C		0		D		0		効果促進事業費の割合C / （A＋B＋C＋D）				0		%	

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R5		R9
1	ニューノーマルにおける暮らしを営むウォーカブルなまちの実現に向け、高の原駅前広場の日中（9：00～16：00台）の歩行者数を3,782人から4,350人へ増加させる。			
	高の原駅前広場の歩行者交通量	3782（人/日）	（人/日）	4350（人/日）
2	公民連携により多様な人々の出会いや交流が生まれる滞留空間や交流拠点を創出し、駅前広場の滞在者（既に3分以上その場に留まっている、またはこの後3分以上その場周辺に留まるとみられる人々）を89人から177人に増加させる。			
	高の原駅前広場で3分以上滞在している人の数	89（人/日）	（人/日）	177（人/日）
3	地域の活性化を図る指標として、高の原駅前広場での市民や民間事業者によるイベント実施回数を2回から10回に増加させる。			
	高の原駅前広場でのイベント数(当初現況値はR4年度数値)	2（回/年）	（回/年）	10（回/年）

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	奈良市	直接	奈良市	-	-	都市再生整備計画事業	道路及び滞在環境整備事業（ シェルター・まちなかハブ・ 社会実験）	奈良市 / 平城・ 相楽ニュータウン 高の原駅周 辺地区	■	■	■	■		1,908		未策定
											小計						1,908		
											合計						1,908		

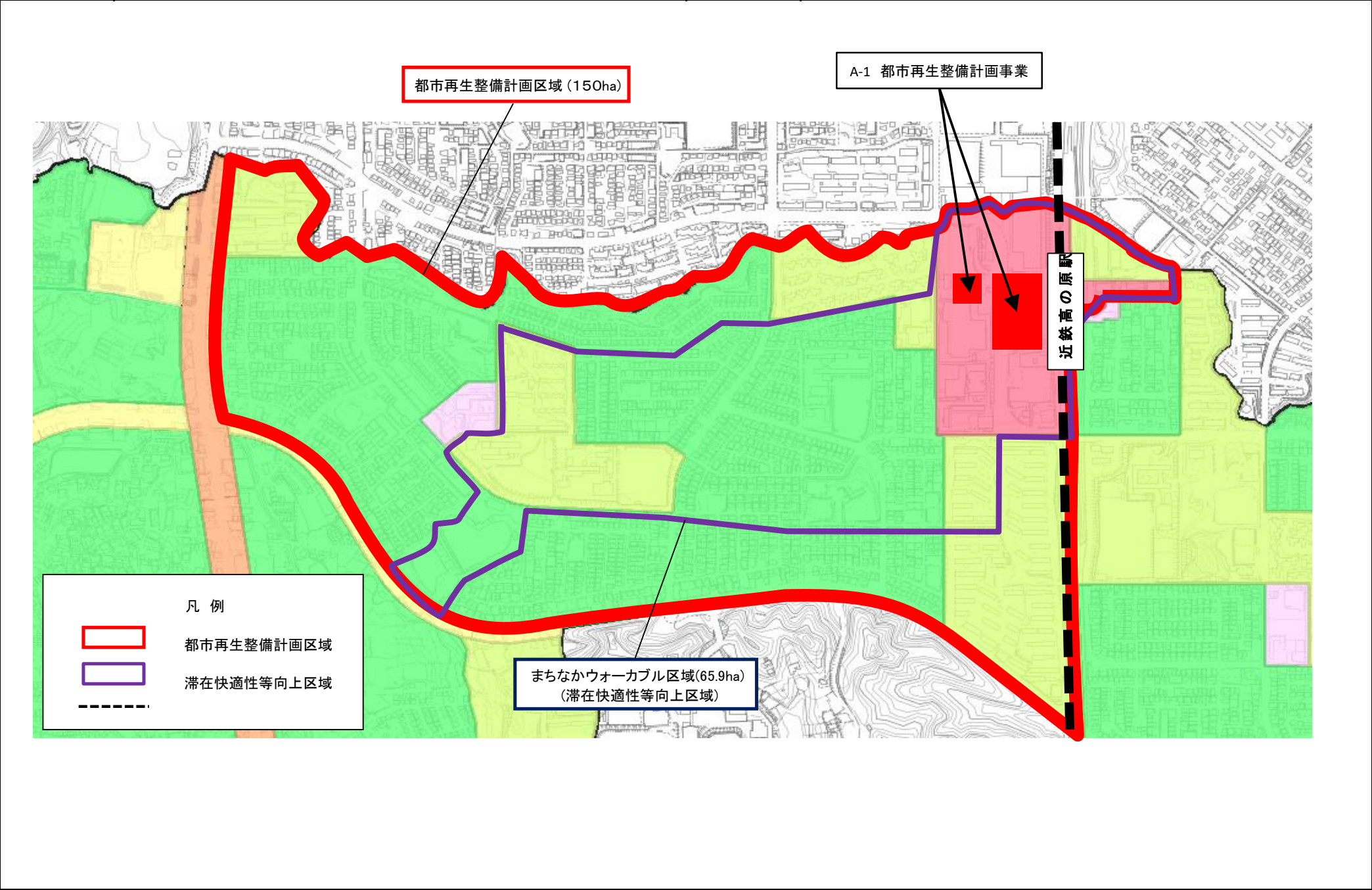
交付金の執行状況

(単位：百万円)

	R05	R06			
配分額 (a)	0	26			
計画別流用増 減額 (b)	0	0			
交付額 (c=a+b)	0	26			
前年度からの繰越額 (d)	0	0			
支払済額 (e)	0	8			
翌年度繰越額 (f)	0	18			
うち未契約繰越額(g)	0	0			
不用額 (h = c+d-e-f)	0	0			
未契約繰越率+不用率 (i = (g+h)/(c+d))%	0	0			
未契約繰越率+不用率が10%を超えている場合その理由					

(参考様式3) 参考図面 (社会資本整備総合交付金)

計画の名称	高の原駅周辺地区における居心地の良く歩きたくなる空間整備		
計画の期間	令和6年度 ～ 令和9年度 (4年間)	交付対象	奈良市



事前評価チェックシート

計画の名称： 高の原駅周辺地区における居心地の良く歩きたくなる空間整備

事 前 評 価	チェック欄
I. 目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
I. 目標の妥当性 都市再生基本方針との適合等 2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
I. 目標の妥当性 地域の課題への対応 2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
II. 計画の効果・効率性 目標と事業内容の整合性等 5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 1) 十分な事業効果が確認されている。	○
II. 計画の効果・効率性 事業の効果 2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 1) まちづくりに向けた機運がある。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
III. 計画の実現可能性 地元の熱意 3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
III. 計画の実現可能性 円滑な事業執行の環境 1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○

[illegible]